

「荒神山チャレンジ陶芸講座」を開催しました。

荒神山自然の家では、令和2年2月9日(日)と3月22日(日)の連続講座で、大人の方を対象にした自主事業である「荒神山チャレンジ陶芸」を開催しました。

前年度に引き続きの陶芸シリーズです。今回は、湖東焼で苔玉わん作りに挑戦しました。

2月9日(日)天候 小雨のちくもり 気温 4度(10:00)

外で体を動かすグラウンドゴルフと室内で創作する陶芸の全く異色の組み合わせの企画を数年続けていますが、前回からのリピーターもあり、10名(すべて女性)の方々に参加して頂きました。年齢層も20代から80代までと幅広くお集まりいただきました。当初予定されていた方が、体調不良や急な用事でご参加いただけなかったのが残念でした。

当日は、明け方まで小雪がちらつく寒い日となり、参加者は開始時間には期待と不安を抱きながらも学習室に集まりました。はじめのつどいで自己紹介があり、「陶芸を楽しみにしています。」と話す参加者がたくさんおられました。

はじめのつどいの後は、隣にある荒神山公園内にあるコースを使ってのグラウンドゴルフを予定していましたが、コースが雪に覆われてしまい、さらに少し風がきつく肌寒さを感じましたので、所員によるリクリエーションで体を動かせました。お互いの名前を紹介したり、じゃんけんゲームや伝達ゲームで約1時間30分ほどの楽しい時間を



送りました。その間に、施設内のクラフト棟で職員が簡易ピザ窯を設置し、準備を着々と進めていました。

レクリエーション終了後、できたピザを頬張りやや軽めの昼食となりました。

冷えた体には、暖かい食べ物や飲み物が一番であると実感した時間でもありました。



こうして、心も体も緊張がほぐれ、リラックスできたので、次の作陶体験はスムーズに進められました。講師の先生の指導の下、各自が思い思いの作品を作り上げていきました。



最初に粘土を細長く伸ばして輪を作ったり、ひも状に手びねりをしてろくろの上に置いて形を作ったり、均一

になるよう一律に円形状に伸ばしてボールの上にかぶせて形を作ったりで、粘土を手で臼状に広げつつ形を作ったりしながらろくろを回し、高さや形を調整していきます。途中途中で、講師の先生方に手直しを受けながらも、それぞれに思いのこもった陶器が完成しました。



参加された方からは、「自作の陶器で・・・」と思って参加されていますが、いざ作ってみると、粘土の厚さを整えるのが難しいようです。上手く仕上げられるか心配しながらも、「とても楽しかった。」と満足げでした。後は、窯入れして、自分が思いを込めて作ったわんの出来上がりを楽しみに待つばかりです。こうして第1回目の活動は終わりました。

今回は、天候が悪かったにも関わらず“荒神山チャレンジ陶芸講座”に、参加して下さった皆さんの協力でスムーズに進み、アンケートにも「楽しかった。また参加したい。」とあって、期待を裏切らず、満足していただけたことに、スタッフも心から喜んでいます。

次回は、できあがった作品にこけ玉を載せて飾り付けです。季節も移り変わり、うらかな春の荒神山で自然に触れ、みなさんと一緒に活動を楽しめることでしょう。

3月22日(日)

荒神山自然の家では、令和2年3月22日(日)に、大人の方々を対象にした自主事業である「荒神山チャレンジ陶芸講座」の2回目の開催を計画していました。

今回は、去る2月9日(日)「荒神山チャレンジ陶芸講座」の1回目に湖東焼で作ったこけ玉わんを使い、こけ玉作りに挑戦する予定でしたが、コロナウイルス感染拡大防止にかかる通達により大変残念でしたが、中止とさせていただきました。

荒神山自然の家では、子どもだけでなく、大人の方にもご利用していただけるよう、幅広い趣向を凝らした楽しい企画を実施していきますので、どうかみなさん楽しみにしていただき、機会がありましたら是非ご参加下さい。